

カナダ金融政策（2021年4月）

景気回復の進展を反映して国債買い入れペースを縮小

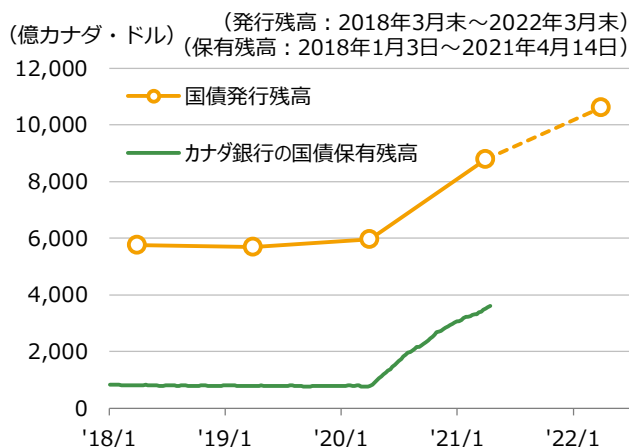
2021年4月22日

国債買い入れは来年前半までに終了し、早ければ来年中の利上げ開始も

カナダ銀行は4月21日（現地）、市場予想通り政策金利を0.25%に据え置き、QE（量的緩和）プログラムを調整すると発表しました。具体的には、これまでの「週最低40億カナダ・ドルのペースで国債を買い入れる」から「週30億カナダ・ドルのペースで保有残高が拡大するよう国債を買い入れる」となり、買い入れペースが縮小されます。カナダ銀行は、今回の調整は景気回復の進展を反映させたものだとして説明した一方、今後の展開については経済状況次第だと強調しています。もっとも、新型コロナウイルスのワクチンが十分に普及し、経済の先行き不確実性が後退すると見込まれる年後半には、国債買い入れペースが一段と縮小され、遅くとも来年前半に新規の買い入れは終了する可能性が高いと考えられます。

もう一つ重要な点は、経済見通しが上方修正され、経済の弛みが吸収される時期の予測がこれまでの「2023年前半」から「2022年後半」に前倒しされたことです。カナダ銀行は政策金利のフォワードガイダンスを「2%のインフレ目標が持続的に達成されるために、経済の弛みが吸収されるまで政策金利を据え置く」としているため、2022年後半には利上げの条件が整う見通しになりました。経済の弛みが吸収されても即座に利上げすることを意味しないとマクレム総裁は念押ししていますが、いずれにしても主要先進国の中でいち早く量的緩和の終了と利上げに向かう可能性が高く、向こう数年はカナダの長期金利やカナダ・ドル円に上昇圧力がかかりやすい状況が続くと考えられます。

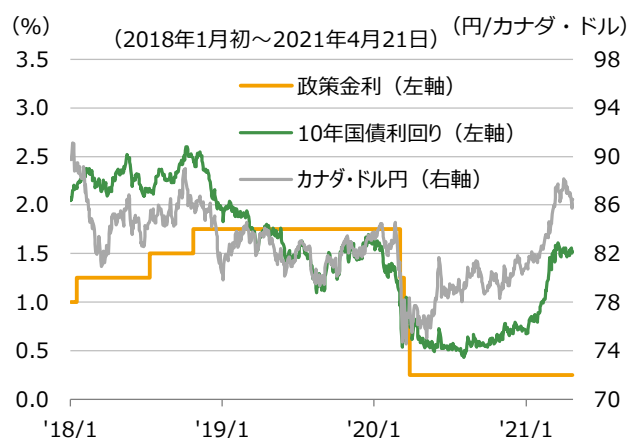
国債発行残高とカナダ銀行の国債保有残高



※国庫短期証券と外貨建債券を除く
※国債発行残高の2022年3月末は2021年4月19日にカナダ政府が発表した2021年度予算案での予測

（出所）カナダ政府、カナダ銀行

金利と為替



※政策金利は決定日ベース

（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。